

## 元寇と日本「鎮魂史」 最終章

やはり、この国はおかしい。

祖国よりも「反日」教育をし、「坑日記念館」を増設している中国にひたすら頭を下げ、「友好」を最優先で考える政治家が多すぎるのである。しかもそれがベテラン、有力者ともてはやされる政治家に多いという特徴を持っている。

友好は大切であるが、相手が「反日」教育をしている国であることを熟知したベテラン政治家ならば、祖国の名誉を守る気概と「戦略」を持って、祖国の「国益」と「名誉」を守ることを最優先しなければならぬ。

メディアでも歴史認識で日本の立場を主張する司会、評論家を観ることが無いのだが、おそらくこんな国家は世界に類がないはずであり、戦後教育が日本人から誇りを奪ったとすれば教育を見直すしか方法はないはずである。

現在も識者と呼ばれる人々が、異形の国、中国の実態に迫り、「歴史」の誤りについて述べている。それは、丁寧に、見事なまでの解説を加えている。ところが日本は、国家としての受け止め方を全くしていない。

進歩的文化人と見られている人々は、今更、「歴史」を蒸し返して寝た子を起すようなことをすべきではないと言いが、国家の原点をおろそかにしてきた悲劇が国民の心を蝕んでいるとすれば、民族の自立は未来永劫できないことになる。

国家が対等の歴史を取戻した時、ようやく日本は中国、韓国の押付ける歴史認識の呪文から解き放たれ、国民の目覚めと共に自立が始まるはずである。

ここまで書いた筆者は、「右傾化」と見られるのかも知れないが、祖国が侮辱されている事実疑問を抱き、自らの意見を主張することが「右翼」であるなら、おそらく世界中が「右翼」と云うことになるだろう。

日本は、歴史的に加害者である前に、中国、朝鮮などの、「元寇」の大軍に侵略され、大虐殺された大和民族の国であることを忘れてはならないし、日本で「元寇の役」、「蒙古襲来」と教えられ、真相が闇の中では困るのである。

明治政府が国民に誇りを持たせるため、「日本は侵略されたことがない国である」と、宣言したことで、「元寇の侵略」が、「元寇の役」などという、物語にされてしまったが、このうわさは多くの国民が知っていたはずである。

「蒙古襲来」という言い方で、中国、朝鮮が無関係のように装っているのも、古典中国に憧れを持ち、夢を壊されたくない政治家や歴史家等が圧力を加えたという噂もあった。

しかも、中国、韓国が「反日教育」で教えている内容は、日本再起不能戦略で米国人が作ったねつ造が多く、「南京大虐殺」などは、日本が、国家として反論しないがゆえに一人

歩きしている代表的な創作論ということができよう。

更に、日本の深い病巣は、一部の政治家が真相を確かめせず、勝手に謝罪を繰返したことで真実とみなされ、それが国際社会にまで浸透していることであろう。その意味でも、日本のベテランと呼ばれた政治家の罪は非常に重いと言わなければならぬ。

これらのベテラン政治家が中国に媚を売り、日本の情報を洩らし、弱点を教えているという噂もあった。真偽のほどは定かではないが、悉く中国の外交戦略にあしらわれている政治を見ているかぎりその疑問が消えることはない。

又、「日本崩壊」の重要部分に節操のない経済支援がある。広大な市場に魅力を感じることはやむを得ないが、「反日」教育の国に製造工場まで輸出するものではない。

資源のない国・日本が唯一、世界に誇れる製造技術や管理ノウハウなどが悉く流出することは、日本が持っていた最強兵器を渡すようなものであり、知恵と誇りまで武装解除をされてはならない。

製造工場を輸出した企業は、日本の国民から、働く場を取上げたばかりでなく、眠っていた巨人に武器を与えたが、それが間違いなく日本の脅威となり、真実の「歴史」奪還が極めて困難になったことを深刻に考えなければならぬ。

捏造された昭和史を信じる親中政治家と目先の金に眼が眩んだ経済人によって日本は非常に危険な道を歩んでいるのである。日本が経済支援をしてきた今、尚「反日教育」を止めず、「坑日記念館」を増設している事実が何を物語っているかは簡単である。

日本がいくら謝罪をしても、中国や韓国が信用することはない。日本批判は国家統一・維持の「鍵」であり、最重要の生贄だからである。「友好」を念じてもそれが空念仏であることを政治家はもうそろそろ理解しなければならぬ。

世界平和主義論は理想であっても、それが幻想であることは世界で戦争がなくなることが示している通りである。日本はオーストラリア、インドなどの友好を強めていく方がどれだけ「国益」であることか考えるべきであろう。

政府は、国民から税金を取るだけでなく、国家が稼いで国民に還元することを考えるべきである。東シナ海で中国にガス採掘を許している体たらくは、世界はおるかアジアで日本の力が失われたことの象徴であり、恥を知らなければならぬ。

高知沖に燃えるガスが出ると言われたのはいつの頃か。採掘技術がないのなら、中国が東シナ海でのガス採掘に利用したように米国に協力してもらったって国民は怒るまい。

日本固有の「力」でなどと、妙なプライドがあるわけではないと思うが、歴史で誇りを失ったことから見れば些少な問題である。

資源がない国だと卑下するばかりが能ではなく、領海の広さは世界でも六番目だという条件を活かすことである。海底資源の探索がどのくらい行われているかは知る由もないが日本が元氣を取戻すための努力を惜しむべきではない。